



Message

§
 M M
 M M M
 a M
 M
 M

M
 M M
 §
 M
 §
 §
 §
 M
 M
 §

M M
 M
 M
 M M M
 M M
 M M M
 §

a §
 § §
 § §
 M

§
 §
 M
 M

M
 M M
 M

§
 M M
 M M

M M
 M
 M
 M
 §

M
 M M M
 M
 M M
 M

RMF 奨学生 先輩からのメッセージ

Message

ご兄弟で作曲家として大活躍の向井響さん、航さん。そんなお二人に、奨学生時代のお話を伺いました。

— RMF奨学金へ応募されたきっかけを教えてください。

☆響さん

私の通っていた桐朋学園にはRMF奨学生が多くいたので前から奨学金制度を知っていました。自分のキャリアにつながるような奨学金だと思っていました。留学をはじめて数年経ち、更にキャリアアップしたいというときに応募しました。

☆航さん

留学生活にかかる生活費や渡航費の負担があり応募しようと考えていましたが、加えて、自分が今まで頑張ってきた勉強の力試しをしてみようという気持ちもありました。私たちはあまり採択されるとは思っておらず、挑戦という意味合いが強かったです。ルーム ミュージック フレンズの先輩方がアンサンブルをしている姿などを見ていたので、ルーム ミュージック フレンズというながりへの憧れもあり、2人で応募しようということになりました。

— お二人同時に、2019、2020年度奨学生に採択されましたね。

☆響さん、航さん

作曲、現代音楽は結果が目に見えにくい分野ですが、自分たちが今まで築いてきたものを認めていただけ、採択されたときはとても嬉しかったです。他の奨学金だと作曲専攻には応募資格が無いこともありますが、RMF奨学金は幅広い分野の音楽学生が応募できるためありがたかったです。

— 奨学金は主にどんな用途で活用されていましたか。

☆響さん

作曲の分野では、コンペティションに合格したら1か月後に初演に立ち合い、ということがよくありますが、そこから初演場所の滞在費用を賄うための助成金を申請しては間に合いません。そういったときにRMF奨学金があったことで、躊躇せずに挑戦することができました。

作曲家は人に会ったり、さまざまな行事に参加したりするなど自身で活動の幅を広げていく必要がありますが、その際に奨学金は大きな支えでした。

RMF奨学金は「学費だけ」という使用用途の制限がないため、その点が非常に魅力だと思います。

☆航さん

私はパフォーマンスを使うような、舞台芸術作品の制作を行っ



向井 響

(作曲専攻 / 2019、2020年度奨学生)

作曲家。桐朋学園大学卒業。ハーグ王立音楽院ソノロジー研究所修士課程を首席で修了。第84回日本音楽コンクール作曲部門、マータン・ギヴォル国際作曲賞、ORDA・2019作曲部門、第33回ACL青年作曲賞、各1位。ローン・メイ作曲賞、マリン・ゴレミノ国際作曲賞を受賞。これまでに、NHK、カールストグルベンキアン財団、モスクワ国立電子音響センター、ストラスブール現代音楽祭より委嘱を受ける。RMF奨学生、令和3年度文化庁新進芸術家海外研修員。現在ポルト大学大学院博士課程に在籍。

ており、演出も含めすべて一人で取り組んでいます。ただそのためにはさまざまな分野の知識が必要であるため、ヨーロッパ各地の舞台を鑑賞したりシンポジウムに参加したりして学びを得ることが大切になってきます。そういったインプットのために奨学金を使用することが多かったなと思います。またオペラの会場を押さえたり、リハーサルを行ったりという作品完成までの過程でも奨学金が大きな助けになり、妥協せずに納得のいく作品を制作することができました。

— スカラシップ コンサートに参加した際のエピソードはありますか。

☆響さん

スカラシップ コンサートで演奏を依頼したアーティストの方々には前から興味を持っていたのですが、お忙しいばかりなのでお声がけできないでいました。そんななか、スカラシップ コンサートという機会をいだけ、またルームさんの強力なサポートがあったからこそ、作品が書けたのだと思っています。

☆航さん

一般的に作曲家の仕事というのは、編成などは依頼主の希望に沿って作品を書くことがほとんどです。一方、スカラシップ コンサートは自分自身で編成も奏者も決めることができるということで、自分がいま本当に書きたい音を書けるとい点が非常に嬉しかったです。

— RMF奨学生を目指している方へのメッセージをお願いします。

☆響さん

RMF奨学金の選考審査では、面接において作品を説明すること、言語化することが求められましたが、それはどんな場面でも必要な力になってきます。採択されればもちろんベストですが、審査を受ける過程で身に着く力も大きいと思います。

☆航さん

落ちたらどうしようということよりも、応募してみても自分はどういう作曲家・音楽家でありたいと伝えてみるだけでも意味があると思います。応募するプロセスにおいて志望動機や目標を考えることで、自身と向き合う良い機会になりますし、その挑戦は結果に関わらず、成長するきっかけを与えてくれると思います。



向井 航

(作曲専攻 / 2019、2020年度奨学生)

作曲家、パーフォーマー。東京藝術大学音楽学部作曲科を首席卒業後、渡独。受賞歴に第33回芥川也志サントリー作曲賞、安宅賞、クロアチア国際作曲コンクール優勝、メンデルスゾーン全音楽大学コンクール独逸邦大統領賞、日本音楽コンクール作曲部門第2位及び岩谷賞など。2019年、20年ルームミュージックファンデーション奨学生としてドイツ・マンハイム音楽舞台芸術大学修士課程に在籍。最優秀で卒業。現在アントン・ブルクナー私立大学およびベルン芸術大学博士課程に在籍中。